

私の好きな「エンデの一節」

注：重複もあります。

世間には、だれのものでもない影や、だれのものにもなりたくない影が、ごまんというんです。『オフェリアと影の一座』

人間には時間を感じとるために心というものがある。そして、もしその心が時間を感じ取らないようなときには、その時間はないもおなじだ。『モモ』

「あたしの友達はきつとおまえの気に入るわ。」『モモ』

いたずらっ子っていうのは おつきくてもちっちゃくても やせててもふとってても どんなでもいい ただひとつ 共通してるのは あそぶのがだいすきっていうこと！『いたずらっ子の本』

人間が時間を節約すればするほど、生活はやせほそって、なくなってしまうのです。『モモ』

ゴンゴラは小品『ミノタウロスの孤独』でこう書いている。「未だ人が踏み入れず、神意により未来永劫、人跡未踏にとどまる砂漠の中央にある貴石は現実ではない。現実には、少なくとも一人の人間の意識がその概念(concetto)を形成するところでのみ存在するから。『自由の牢獄』

もっとも重要な掟のひとつは、「迷宮を去る者だけが幸福になれる。だが、幸福な者だけが迷宮から逃げ出せる」というものだ。『鏡のなかの鏡 -迷宮-』

光を見るために目があり、音を聞くために耳があるのと同じに、人間には時間を感じとるために心というものがある。『モモ』

ひとあし——ひと呼吸——ひとはき。
／人間には時間を感じとるために心というものがある。『モモ』

父親の目に涙が宿っていたのだ。『はてしない物語』

「ほんとうの物語は、みんなそれぞれはてしない物語なんだ。」「ファンタージェンへの入口はいくらもあるんだよ、きみ。そういう魔法の本は、もっともっとある。それに気がつかない人が多いんだ。つまり、そういう本を手にして読む人しだいなんだ。」『はてしない物語』

これは別の物語、いつかまた、別のときにはなすことにしよう。『はてしない物語』
「いけるけれども、そのまま向こうにいっきりにになってしまう人間もいる。それから、ファンタージェンにいて、またもどってくるものもいくらいるんだな、きみのようにね。そして、そういう人たちが、両方の世界を健やかにするんだ」『はてしない物語』

絵ごころのある左官屋は、さいごの仕上げに壁にすてきな花の絵を描き、それに額ぶちと止め金まで描きそえました。『モモ』

ファンタジーとは現実から逃避したり、おとぎの国で空想的な冒険をすることではありません。ファンタジーによって、私たちはまだ見えない、将来起こる物事を眼前に思い浮かべることができるのです。私たちは一種の預言者的能力によってこれから起こることを予測し、そこから新たな基準を得なければなりません。『エンデの遺言』

人間はじぶんの時間をどうするかは、じぶんできめなくてはならないからだよ。『モモ』

地平線のうしろには新しい地平線が広がる。ひとつの夢世界をあとにすると、そこはまた新しい夢世界だ。境界を越える間に、たちまち次の夢世界が眼前に展開する。そうして黄昏の岸边までそれは続くのだ。道はまだ遙かだ。『自由の牢獄』

時間を感じとるために心というものがある。『モモ』

一回の呼吸、心臓の一鼓動でさえ自分で決めなければならない。それに、決めたことはみんなおまえたちを永久に義務づけるのだ。ミスライムのカタコンベ（『自由の牢獄』収録）

時間は、生きることそのもの。『モモ』

いちどに道路ぜんぶのことを考えてはいかん、それはわかるかな？ つぎの一步のことだけ、つぎのひと呼吸のことだけ、つぎのひとはきのことだけを考えるんだ。いつもつぎだけのことをな。『モモ』

「月の子(モンデキント)！ 今ゆきます！」『はてしない物語』

人間はじぶんの時間をどうするかは、じぶんじんできめなくてはならない。『モモ』

ミチハ ワタシノナカニアリマス オソイホド ハヤイ『モモ』

「いちどに道路ぜんぶのことを考えてはいかん、わかるかな？ つぎの一步のことだけ、つぎのひと呼吸のことだけ、つぎのひとはきのことだけを考えるんだ。(中略)するとたのしくなってくる。これがだいじなんだな」『モモ』

ユーモアとは、自分の不完全さを苦渋に陥ることなく認め、気持ちを楽にしてくれる、あの意識の姿勢です。そしてまた、他人の不完全さも微笑んでうなずける。(…)なぜなら、ユーモアは子どもたちに、人は失敗するし失敗してもいいんだと語ってくれるからです。いやそればかりか、わたしたちには足りないところがあるから、だからこそ愛されるのだと教えてくれます。「永遠に幼きものについて—国際児童図書評議会東京会議での講演」(『エンデのメモ箱』収録)

はげしい追跡と、のんびりした逃亡。『モモ』

それを話すためには、まずお前の中で言葉が熟さなくてはいけないからだ。『モモ』

ゆっくり急げ『モモ』

モンデンキント『はてしない物語』

第一の箱の鍵は 第二の箱の中に そして 第二の箱の鍵は 逆に第一の箱の中に入っております『サーカス物語』

オソイホド ハヤイ『モモ』

それは起きるのです。『ものがたりの余白』

愛なんてあるものかとあんたは言ったね 自由もそして創造的な遊びも存在しないと？ 自分自身のことしか眼中にないアングラマインよ あんたがそう言ったって誰も驚きやしない。いいか愛と自由と遊びの3つを手に入れたものだけがしんから心おきなくただよいながらお互いに相手に変身してしまうことだってできる。『サーカス物語』

「そうか、フッフル。だがこうしてはなしているうちにもわれわれに残された時間は刻々過ぎ去ってゆく。早くなんとかしなければ。とって、どうすればいいのだろう？」「幸運を願うこと。ほかにありますか？」『はてしない物語』

「それじゃ、はてしない物語は、人によってちがうんですか？」
「そう思うんだよ、おれは。」『はてしない物語』